

中文和訳における語の省略¹⁾について

張 永 旺

はじめに

- 一. 人称代名詞の省略
- 二. 数詞「一」+助数詞の省略
- 三. 重複による省略
- 四. 形式動詞の省略
- 五. 範疇名詞の省略
- 六. 副詞の省略
- 七. その他の省略

むすびに代えて

はじめに

中国語と日本語の中には同じ漢字が多く使われている。両言語が切っても切れない関係にあるのは、だれもが認める事実である。しかし、文法体系から見ると、両言語はまったく性格の異なるものである。前者は独立語で、後者は膠着語である。中国語の文法上のもっとも大きな特徴は、厳密な意味での語形変化がないことである。語の文中における格と文の意味は語の順序によって決まる。語順というものは大変重要な役割を持っており、自由に動かすことができない。例えば「田中君教鈴木君英語」は「田中君が鈴木君に英

語を教える」意味で、もし「田中君」と「鈴木君」の順序を入れかえると、両者の「教える」関係はあべこべになって、「鈴木君が田中君に英語を教える」ことになってしまう。日本語の語の格と文の意味は中国語と違って、語順ではなく、テニヲハの付着と用言の語尾変化によって決まる。語順が多少入れかわっても意味が通じる。例えば上の「田中君が鈴木君に……」の順序を置きかえて、「鈴木君に田中君が……」にしても、二人の「教える」関係は少しも変わらない。それは助詞「が」と「に」が付いているからである。また「教える」の語尾「～える」を「～えた」「～えている」「～えていた」にすると、テンスとアスペクトの違いが生じてくるし、さらに「～えさせる」「～えられる」「～えたい」「～えない」等の形にすると、こんどは文の意味も違って来る。中国語にはこのような変化がない。テニヲハも用言の語尾変化もないから、あくまでも語順だけが頼りになるのである。両言語の中に同じ漢字が使われているにもかかわらず、このように大きな違いがある。それだけではない。中国語と日本語の違いはなおいくつもある。本稿は中文和訳の際の語の省略を課題とし、実際の訳例を通して、両言語の違い・特徴の比較を試みるものである。

一．人称代名詞の省略

日本語では人称代名詞を使わなくてよい時には省略する。どういう場合、そしてなぜ省略することができるのかについて、次の四項目に分けて、述べたいと思う。

1．敬語による人称代名詞の省略

中国語の中にも敬語がある。例えば「貴校/貴校・貴学」「尊姓/お名前」「府上/お宅」「家父/父」「光臨/光臨・光来」などの言い方がある。しかし、中国語の敬語表現はほとんど人称代名詞や一部の名詞に集中しており、動詞の敬語形式は少ない。この点では日本語の動詞敬語表現形式は非常に発達して

いる。例えば中国語の「去/行く」「吃/食べる」「做/する」「説/言う」等は、あなたと私、目上と目下と関係がなく、どんな人の動作であっても、同一の動詞を使って表現する。それに対して、日本語の場合は違う。話し手自身、あるいは自分側の者の動作についてへりくだって言う場合、「去/参る」「吃/いただく」「做/いたす」「説/申す・申し上げる」などの謙譲語の言い方があり、また話題にのぼる人物の動作をうやまって言う場合、「去/行かれる・いらっしゃる」「吃/めしあがる」「做/なさる・される」「説/おっしゃる・言われる」等の尊敬語の言い方もある。「読む」「借りる」等の普通の動詞の敬語形式としては、「読まれる」「借りられる」のほかに、また「お読みになる」「お借りになる」等の尊敬・謙譲形式もよく見られる。日本語の敬語表現は実に複雑である。しかし、丁寧語・尊敬語・謙譲語の使い分けがあるから、動作を行う主体と動作の向けられる対象をたびたび省略することができるという利点もある。省略されていても、だれがだれに対しての動作か、敬語の表現形式によってちゃんと判断・把握できるからである。文中に「参る」「さしあげる」「申し上げる」「いただく」「お・ご……する」「お・ご……いたす」類の謙譲表現があらわれると、その主体は普通話し手自身であり、「いらっしゃる」「なさる」「……れる・られる」「お・ご……になる」等の尊敬表現がある場合、話題にのぼる人物の動作で、話し相手と話題にのぼる人物が重なっている場合、言うまでもなく第二人称の動作になるからである。それゆえ、中文和訳にあたっては、当然この特徴を生かさなければならない。

○我来晚了，让您久等了/遅くなりまして、大変お待たせしました。

○我等着您/お待ちしております。

○好，明天我一定来/わかりました。明日かならず参ります。

○我告诉您一个好消息/いいニュースをお知らせしましょう。

○我来给您拿吧/お持ちいたしましょう。

○那我陪您到附近的饭店去吃吧/さあ、それでは近くの料理屋へお供しましょう。

○您一向可好？/お元気ですか。

- 您是等哪一位？/どなたをお待ちですか。
- 您打算研究什麼？/何を研究なさるおつもりですか。
- 歡迎您再来/またおいでください。
- 謝謝你的好意/ご好意ありがとうございます。
- 您說得很对/まったくおっしゃるとおりです。

いずれも敬語による人称代名詞の「你」「您」「我」が省略された例である。

2. 用語の指向性²⁾による人称代名詞の省略

日本語の中では、一部の動詞と助動詞が述語として、終止形の形で文末に置かれているとき、主語を省略する例がよく見られる。ここで言う一部の動詞・助動詞とは、動詞の「思う」「考える」「願う」「信じる」「疑う」「悔やむ」「困る」……、助動詞の「たい」「まい」「う」「よう」の類である。

これらの語が述語として、終止形で文末に現れるときは、指向性が強く、その主体は普通第二・三人称や他人ではなく、必らず話し手自身、つまり第一人称である。なぜなら、いずれも心理状態を表す言葉で、終止形を変えなければ、あるいは「～か」とか「～でしょう」とか「～のようだ」「そうだ」「と言った」等の要素を付け加えないかぎり、他人の心理状態の表現にはなりがたいからである。こういう場合、これらの語の主体（主語）である第一人称「私」が強調される意識がないとき、よく省略される。

- 我想他一定会同意的/彼はきっと賛成するだろうと思う。
- 我看還是採納這個建議的好/やはりこの提案を受け入れたほうが良いと思う。
- 這東西我怕借不到/これは借りられないのではないかと思います。
- 我後悔沒能及時幫助她/すみやかに彼女を手助けできなかったことを悔やむ。
- 我以為那樣的規章應該作廢/そんな規則は廃止すべきだと考える。
- 我不知道怎麼回答才好/何と言っていいか返事に困る。
- 我懷疑他是罪犯/彼が犯人ではないかと疑う。

- 我想稍微休息一下/少しばかり休みたい。
- 咱們後天上海見/あさって上海で会おう。
- 讓我們為實現四個現代化貢獻力量/四つの現代化實現のために力をささげよう。
- 那種蠢事我絕不会再做了/あんなばかなことはもう二度としまい。

以上の例はいずれも終止形と呼応する第一人称「我」あるいは第一人称側の「我們」「咱們」を省略した例である。もちろん、これらの語の終止形でない第一人称省略の例もよくある。ただし、終止形でない場合、これらの語と呼応する主語はかならずしも第一人称とは限らなくなる。例えば「彼はきっと賛成するだろうと思う」の「思う」を「思っている」に変えると、「思っている」の主語は省略された「私」である可能性もあるし、「彼は（だれかが）きっと賛成するだろうと思っている」という意味の場合、主語は「私」ではなくなり、「彼」になってしまう。そういうきらいがあって、ここまでの用例を終止形の例のみにしぼったのである。しかし、以上の語が文中に現れるとき、なにも終止形であるかどうかにかかわる必要がなく、主語を強調する意識がなく、そして省略しても誤解が生じない場合、省略してよいと思う。次の例は終止形でない場合の省略である。

- 你来得真巧，我正要找你/まったくよいときに来た。ちょうど君を訪ねようと思っていたところだ。
- 我想了好久，到底明白了/長いこと考えて、やっとわかった。
- 我從前就覺得他不好/あの人を前から悪く思っていた。
- 今年夏天我考慮到海浜去/この夏は海岸へ行こうと考えている。

日本語の中には、上の語と同じ指向性を持つものとして、また一部の形容詞と形容動詞がある。例えば形容詞の「悲しい」「寂しい」「恥ずかしい」「うらやましい」「怖い」「うれしい」「たまらない」「ほしい」³⁾……、形容動詞の「残念だ」「愉快だ」「心配だ」「いやだ」「すきだ」等がそれである。これらの語はいずれも人間の喜・怒・哀・楽・好き嫌い等の心理状態を表すもので、いわゆる感情形容詞の類である。以上の語の終止形・否定形・過去形が

文末に現れるとき、それと呼応する主語は普通話し手自身である。この場合、主語を強調する意識がなければ、よく省略する。

○見到你我非常高興/あなたにお会いできてほんとうに嬉しい。

○這事我一点不怕/こんなことちっとも怖くはない。

○我要那朵紅花/あの赤い花がほしい。

○回想起昨天和你說的話，我實在不好意思/きのう君に言ったことを考えると、実に恥ずかしい。

○這種東西我已經厭膩了/こういうものはもういやだ。

○我心里怪不高興的/心中実に不愉快だ。

○北京的秋天我喜歡得不得了/北京の秋がたまらなく好きだ。

○叫這孩子一個人去，我不放心/この子一人で行かせるのは心配だ。

○我不能幫助你，真是抱歉得很！/お手伝いできないのは本当に残念だ。

また「つもり」「決意」等の語が用言ではないが、判断助動詞「だ」を借りて、文末に置かれるとき、以上の語と同じように、強い指向性を持つものである。それと呼応する主語は普通話し手自身で、主語を省略することもよくある。

○我打算下星期回老家/来週郷里に帰るつもりだ。

○我決心為祖國的現代化大幹一場/祖國の近代化のために大いにやる決意だ。

3. 受給関係⁴⁾を表す表現による人称代名詞の省略

受給関係を表す動詞としては「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」の類がある。これらの語はまた「～てやる」「～ていただく」等の形で補助動詞としても用いられる。これらの語も指向性の強いもので、文中に現れるとき、人称代名詞はよく省略される。

○這是田中作為旅行的禮物送給我的/これは田中君が旅行のみやげにくれたのです。

○你怎麼沒等等我？/どうして待っててくれなかったんだ。

○他遞過一塊熱毛巾給我/彼は熱いタオルを渡してくれた。

- 丢了就丢了，我另外給你一個/なくしたならなくしたでいいさ，別のをあげるよ。
- 你要是不懂，我教給你/わからなければ教えてあげる。
- 請老師告訴我朋友的地址/先生に友だちの住所を教えてください。
- 你放心，東西我一定托人帶到/安心したまえ，品物はかならず持っていつでももらうから。
- 您能不能借給我用一下？/ちょっと貸していただけませんか。

4. 対話による人称代名詞の省略

話し手と聞き手が直接に面と向かって話しているため，たとえ上の1～3の要素がなくても，第一・第二人称が省略できる。むしろ省略されて，日本語としてはかえって簡潔で自然になることが多いと思われる。特に疑問・応答・命令・呼びかけの場合はそうである。中国語でもこういう場合省略されることがあるが，しかし日本語ほどではない。

- 你別怕，我看看就給你，不要你的/心配しなくていいよ。ちょっと見たらすぐ返すから。取るわけじゃないよ。
- 我已經知道了，你無須再說了/もうわかった。これ以上言う必要はない。
- 小虎子，你這兒來，我有話跟你說/小虎子，ここに來なさい。話があるから。
- 你想什麼？/何を考えているの。
- 你給我走開！/あっちへ行け。
- 你好好聽聽大家的意見吧！/みんなの意見をよく聞きなさいよ。
- 你把這本書還給他/この本を彼に返しなさい。
- 讓我們團結在党中央的周圍，去爭取更大的勝利！/党中央のまわりにしっかりと團結して，いっそう大きな勝利を勝ち取ろうではありませんか。

二. 数詞「一」＋助数詞⁵⁾の省略

中国語の特徴の一つは，助数詞が発達していて，大量に使われることであ

る。指すものの種類・形状・性質によって、数多くの助数詞が細かく使い分けられている。日本語の中にも助数詞がかなり多くある。しかし、中国語ほどではない。両国の小学国語（1～6学年，12冊）⁶⁾を比較対象にして調べた結果によれば、中国語の方は154個あるのに対して、日本語の方はただ60個⁷⁾しかない指摘されている。ここで言う154：60の助数詞とは、事物の種類・形状・性質を表すもので、長さ・重量・容量・面積・体積・時間・貨幣に関する国際通用のものは含まれていない。

中国語では、以上のような助数詞が「一」とつないで、連体修飾語として使われる例がよく見られる。それに対して、日本語の方は数量概念の強調意識があまり強くない場合、あるいは「一」の後の助数詞が複数の意味を表すものか、程度・状態のひどさを表すものでない場合、「一＋助数詞」の使用頻度はあまり高くないようである。それは次の訳例を見てもわかると思う。

- 中国是一個多民族国家/中国は多民族国家である。
- 老王是一個正直的人/王さんは正義感の強い人だ。
- 這是古代流伝下来的一個故事/これは昔から伝えられてきた物語である。
- 星期天有一場球賽/日曜日に球技の試合がある。
- 昨天晚上下了一場大雨/昨晚大雨が降った。
- 前边開過來一列国际列車/前方から国際列車がやってきた。
- 樹梢被斜陽塗上一層金色/夕日でこずえが金色に染まった。
- 上身穿一件灰呢制服/上半身には灰色の毛織の人民服を着ている。
- 他還是一身農民打扮/彼はまだ農民の身なりをしている。
- 忽然從海上传来一陣歌声/突然海のほうから歌声が聞こえてきた。
- 這種花總有那麼一股香味，聞起来叫人心醉/この花はいつもいい香りがして、かぐと人をうっとりさせる。
- 突然感到一股寒氣/突然寒気がした。
- 感到一種由衷的高興/心から喜びを覚える。
- 每天看報是一種良好習慣/毎日新聞を読むのはいい習慣だ。
- 老李发来一封急電/李さんがウナ電を打ってきた。

- 団部下了一道命令/連隊本部が命令を下した。
- 攻下了最後一道難関/最後の難関を攻めおとした。
- 臉上顯出一副驚喜的樣子/顔におどろきと喜びの表情が現れた。
- 禁不住深深地嘆了一口氣/思わず深くため息をついた。
- 這是一篇相当不錯的文章/これはかなりよい文章だ。

以上の例はいずれも「一+助数詞」を省略したものである。中には省略しなくてもよい例がまったくないとは言い切れないが、ほとんどの例は「一+助数詞」で訳す必要がなく、あるいはその形で訳すと、かえって不自然になると思われる。そして、「下了一场雨」「感到一股寒氣」「一身農民打扮」「傳來一陣歌聲」「一副驚喜的樣子」等の場合、日本語としては、もともと「一+助数詞」を使って表現しないようである。こういう場合、当然「一+助数詞」を省略していいと思う。

しかし注意しなければならない問題は、数量概念の強調意識がある場合、あるいは「一」の後の助数詞が複数の意味か程度・状態のひどさを表すものである場合、上との訳し方が違ってくることである。この場合、上とは違って、省略せずに訳するのが普通のようなのである。それは次の訳例を見てわかると思う。

- 你老人家一個人走路，我不放心/お年寄りのあなたが一人で行かれるのは私心配です。
- 他只認識我們当中的一個人/彼は我々のうちの一人しか知らない。
- 這次考試，李力一個漢字都沒寫錯/今度の試験では、李力は一つの漢字も間違えなかった。
- 我一次京劇也沒看過/私は京劇を一度も見ることがない。
- 這裡還有一層原因/ここにはもう一つの原因がある。
- 今天家里就我一個人，你来玩吧！/きょう、家にはぼく一人しかいないんだ。遊びにおいでよ。
- 還有一系列問題/あと一連の問題がある。
- 門口聚集了一群人/戸口に大勢の人が集まった。

- 一樓的人都出来了/建物の中にいる全員が出て来た。
- 他跑得一頭汗/彼は走って顔じゅう汗だらけになった。
- 他弄了一身土/彼は体じゅうが泥だらけになった。
- 他挨了一頓棍子/彼は棍棒でひどく打たれた。
- 一桌子的菜/テーブルいっぱいの料理

数量を強調する場合「一+助数詞」の形で、事物の程度・状態のひどさを表す場合「全員」「顔じゅう」「体じゅう」「ひどく」「いっぱい」等の語で訳した例である。

三. 重複による省略

中国語では、リズム感や強調のため、よく重複の形を使う。それをそのままの形で日本語に訳すと、文が長たらしくなって、くどい感じがする場合がある。こういう場合、重複の形を省略してよいと思う。

- 我以為他一定要反对的，不料他倒同意了/彼はきっと反対すると思っていたが、なんと賛成したのだ。
- 我們不僅要研究現在，而且還要研究未来/私たちは現在ばかりでなく、未来をも研究しなければならない。
- 我借給你課本，借給你詞典，你要好好學習/テキストと辞書を貸してあげるから、しっかり勉強するんだよ。
- 不能淨聽你一個人的，還要聽聽別人的意見/君一人の意見だけではなく、他の人の意見も聞かなくてはならない。
- 要往前看，要充滿信心/前向きに考え、確信を持たなければならない。
- 我們要培養分析問題，解決問題的能力/われわれは問題を分析し、解決する能力を培わなければならない。
- 同志們對我如此關心，如此愛護，使我深愛感動/同志たちのこうした心づかいやいたわりに、深い感銘を受けた。
- 要熱愛人民，特別要熱愛勞動人民/人民，特に勤勞人民を愛さなければな

らない。

- 你應該知道什麼事情可以說，什麼事情不能說/君は言っているいいことと悪いことをわきまえるべきだ。
- 我們不為下一代着想，誰為下一代着想？/われわれが次の世代のためを考えなければ，誰が考えるのか。
- 上有父母，下有兒女/上には両親，下には子どもたちがいる。
- 這是小王，下一個是小張，再下一個是小李/これは王さん，次が張さん，そのまた次が李さんです。
- 近百年的經濟史，近百年的政治史，近百年的軍事史，近百年的文化史，簡直還沒有人認真動手去研究/ここ百年の經濟史・政治史・軍事史・文化史については，その研究にまじめに手をつけているものはまだまったくない。
- 你想去什麼地方就去什麼地方/行きたいところへ行けばよい。

四. 形式動詞⁸⁾の省略

中国語には、場合により名詞の文法的特徴や文法的機能を持つ動詞がある。このタイプの単語が動詞と名詞の二類を兼ねる単語である。これには「分析/分析・分析する」「調査/調査・調査する」「感謝/感謝・感謝する」等のようなものがある。ここではこういった動詞を動・名兼類動詞と呼ぶ。動・名兼類動詞の前にまた動詞が来て、両者がくっついて（間に連体修飾語等の要素が介入していることもある）使われるとき、普通、前の動詞は形式動詞で、後の動・名兼類動詞は実際に動作を表すものである。例えば「加以説明」「進行討論」「遭到暗殺」「給以帮助」等がそれである。この場合、前の「加以」「進行」等は形式動詞で、後の「説明」「討論」等は実際に動作の意味を表すものである。後の動詞の対象は普通前の方にある。以上の文を日本語に訳すとき、訳し方としては大体二通りある。一つは後の動・名兼類動詞を前の形式動詞の客語として訳すのと、もう一つは前の形式動詞を省略して、後の

兼類動詞を動詞の形にして訳すのがある。例えば「对于任何问题都要加以具体分析」の訳例としては「いかなる問題に対しても具体的に分析を加えなければならない」と「いかなる問題に対しても具体的に分析しなければならない」の二つがある。どちらも正しい日本語の表現である。形式動詞を省略するか否かは、それは具体例と訳者の取捨選択によって決まる。一律に省略していいとは言えないと思う。次の例はいずれも形式動詞を省略したものである。

- 選取典型經驗加以推广/典型的な經驗を選び出して推し広める。
- 把整個過程加以總結/全過程を総括する。
- 這些困難應該加以解決/これらの困難は解決すべきだ。
- 這些缺点必須加以克服/これらの欠点はどうしても克服しなければいけない。
- 对預算進行審查/予算を審査する。
- 妄圖進行顛覆活動/てんぷく活動をもくろんでいる。
- 至于其他具体事宜，訂于○月○日派我会駐京代表赴貴市進行協商，請予接洽/なお，その他具体事項につきましては，当会北京駐在代表を○月○日に貴市へさし向け，打合わせますので，よろしくご引見下さい。
- 他有困難，我們应当給以幫助/彼に困ったことがあるなら，われわれは当然援助すべきだ。
- 希望对亞洲和世界的和平与安定作出貢獻/アジア及び世界の平和と安定に寄与することを希望する。
- 達成協議如下/次のとおり協議した。
- 他們對我們表示熱烈歡迎/彼らは私たちを大歓迎してくれた。
- 聞一多在昆明慘遭暗殺，激起了全國人民的憤怒/聞一多が昆明でいたましくも暗殺され，全国人民の激しい怒りが引き起こされた。
- 本声明自公布之日起，中華人民共和國和日本国之間迄今為止的不正常狀態宣告結束/中華人民共和國と日本国との間のこれまでの不正常的な状態はこの共同声明が発表される日に終了する。

五. 範疇名詞の省略

中国語の「問題」「任務」「工作」「状況」といった名詞が具体的な意味・概念を表す名詞の後について使われるとき、あまり実質的な意味合いがなく、単なる前の名詞の範囲・状態を表す場合がある。こういったものをここで範疇名詞と呼ぶ。日本語に訳す場合、これらの範疇名詞はよく省略される。

- 这里不存在敵我矛盾問題/ここには敵味方の矛盾が存在しない。
- 对于这位老人的困難問題我們不能熟視無睹/この老人が困っているのを見ながら、見ぬふりをするわけにはいかない。
- 我們要很好地完成教学改革任務/われわれは教育改革をりっぱにやりとげなければならない。
- 我們要加強調研工作/われわれは調査・研究に力を入れなければならない。
- 工人・農民和知識分子這三支基本社会力量相互間的團結狀況，現在也比較良好/労働者・農民・知識分子というこの三つの基本的社会勢力の相互の團結もいまはかなり良くなっている。
- 我們的旅遊服務質量還不能令人滿意/われわれの観光サービスはまだ観光客を満足させるところまで行っていない。
- 茶葉質量的好壞取決于原料的優劣和加工的粗細/茶の葉の良し悪しは原料の優劣と加工の良否によって決まる。
- 昨天發生了一起由于漏電事故而引起的火災/きのう漏電による火災を起こした。
- 必須從生物化学的角度来看進化論/生物化学から進化論を見なければならない。

六. 副詞の省略

副詞の中には程度を表す「很」がある。この「很」は「とても」という意味ではあるが、場合によってはほとんど程度の意味合いを表さないと言って

いいときがある。それは次のような場合である。

中国語の形容詞の中には「多」「少」「大」「小」「冷」「熱」「快」「慢」等のように、一音節の形容詞がある。一音節の形容詞が文中において、連体修飾語・述語・補語になる場合、それぞれ一定の条件や制限がある⁹⁾。例えば「多」「少」等のように、普通は述語や補語になるだけで、「×多書」「×少人」等のように、単独では名詞を修飾することができない形容詞もある。これらの語は連体修飾語になるとき、「很多書」「不少人」等のように副詞「很」「不」と結合しなければならない。また、対照・比較の意味合いのある文では、一音節形容詞が単独で述語あるいは補語になることができる。例えば

○這個孩子人小志氣大/この子は年は若いが意気盛んだ。

○小王比小張高/王君は張君より背が高い。

○妹妹唱得好，哥哥唱得不好/妹は歌がうまいが兄はうまくない。

しかし、比較・対照の意味合いのない文では、一音節形容詞だけを述語としてあるいは補語として用いると、聞き手の側では、文の意味がまだ完結しておらず、途中までしかしゃべらなかったという感じを持ってしまう¹⁰⁾。そこでそのような場合には、普通、形容詞の前に程度副詞「很」を加えて、「這個孩子志氣很大」「小王很高」「妹妹唱得很好」のように言う。この場合の「很」は程度の意味はほとんど表さない¹¹⁾。それゆえ、和訳する場合、それを省略してよいと思う。

○這一点很对/この点は正しい。

○今天很熱/きょうは暑い。

○這間屋子很大/この部屋は大きい。

○她鋼琴彈得很好/彼女はピアノが上手だ。

○北京的春天一般風沙很大/北京の春は普通風と砂ぼこりがひどい。

○通過學習，我們有很大收穫/學習を通じて我々は大きな収穫を得た。

○工廠開了工以后，生產一直很忙/工場開業以来，生產はずっと忙しい。

○這件事我很難插手/この件には私は手を出しにくい。

上の「很」のほかに、「都」「些」「却」「則」「而」等の副詞もよく省略さ

れる。これらの語の省略については、前人がすでに詳細な論述があったので、ここではふれないことにする。

七. その他の省略

日本語には「天気が良い・悪い」という言い方があるが、「天気が寒い・暑い・暖かい・涼しい」等の言い方がないようである。日本語訳の『現代中国語用法辞典』¹²⁾の中から、天気の寒・暑・涼・暖に関する訳例を30個ほどさがし出したが、中に「天気」で訳した例は一つもなかったようである。「氣候」で訳した例は3・4個所ぐらいあったが、ほとんどの例は「天気」をぬきにして訳してある。後で辞書類と関連資料¹³⁾を調べてわかったことだが、それは日本語の表現としてはもともと「天気が寒い・暑いとは言わない」¹⁴⁾からである。日本語にない表現形式だから、当然日本語の表現習慣にしたがって訳さなければならないと思う。

次は中国語の「天」「天兒」「天氣」がある文を訳したいくつかの例である。

- 天氣逐漸冷了起来/氣候は次第に寒くなってきた。
- 天兒熱了，毛衣穿不住了/氣候が暑くなって，セーターは着ていられなくなった。
- 黑龍江那一帶，十一月初天氣已經很冷了/黑龍江の一帯では，11月初旬にはもうたいへん寒い。
- 即使天再冷，風再大，我們也不怕/われわれはどんなに寒かろうと，風が強かろうと，平気だ。
- 過了中秋，天氣越發涼爽了/中秋節を過ぎて，一段と涼しくなった。
- 天漸漸地暖和起来/すこしずつ暖かくなってきた。
- 天太熱，實在懶得上街/暑いので，街に出るのがひどく大儀だ。

また、中国語の「看電影」「喝酒」「唱歌」「跳舞」「幹工作」等の「看」「喝」「唱」「跳」「幹」といった動詞も場合によっては省略することがある。

- 孩子們喜歡看電影/子どもたちは映画がすきだ。

- 我這個人不能喝酒/私は酒に弱い。
- 她很會做菜/彼女は料理が上手だ。
- 我不擅長幹這種工作/私はこういう仕事は苦手だ。
- 你愛不愛聽京劇？/君は京劇がすきかね。
- 我最喜歡打籃球/バスケットボールが大好きだ。
- 不管來不來，你都打個電話給我/来るにしろ，来ないにしろ，電話をください。

動詞「看」「喝」「做」「幹」「聽」「打」を省略した例である。日本語の意味としては完結していない感じはなく，むしろ以上の動詞を訳すと，かえって蛇足の感じがするきらいがある。それで省略したのである。これとよく似たものとしては，また名詞の「事情」「天色」「路」等がある。

- 事情錯在什麼地方？/どこが間違っているのか。
- 他們正在談論什麼事情/彼らは何かについて議論しているところだ。
- 幸好天黑，要不就給敵人發現了/幸い暗かったからよかったものの，そうでなければ敵に見つかるところだった。
- 天色漸漸黑下來/だんだんと暗くなってくる。
- 要不是路太遠，奶奶本來也想來看看您的/遠くさえなければ祖母も伺ってお目にかかりたがっていたのですが。

むすびに代えて

以上，七つの項目に分けて，中文和訳に際して，どういう場合に省略するのか，そしてなぜ省略するのか，あるいは省略しなければならないのかについて，原文と訳文を対照にして，私なりのまとめ方をしてきた。本稿を書く当初，ほんとうは今の「語の省略」だけではなく，「語の省略と添加」という題目で，中日両言語の相違・特徴を比較するつもりではあったが，いよいよ帰国する間ぎわになり，時間的余裕もあまりなく，また，紙数の制限もあって，「語の省略」だけにしぼった。「中文和訳における語の添加について」は，

これからの研究課題とする。

なお、文中では印刷上の都合により、中国語の簡体字と繁体字が両方用いられている。

1990年3月23日 脱稿

- 1) この省略とは二つの場合のことをさす。一つは省略しなくてもよい場合の省略で、いま一つは省略しなければ、日本語としては不自然になるという場合の省略である。
- 2) 『日語学習与研究』、『日語学習与研究』雑誌社、1989年第4期、22ページ。
- 3) 「……てほしい」も形容詞「ほしい」と同じ指向性を持つものである。
- 4) 『外国人のための基本語用例辞典』（第二版）、文化庁、付録44ページ。
- 5) 中国語では助数詞を量詞と言う。
- 6) 『小学国語』、光村図書出版、昭和62年。『六年制小学語文課本（試用本）』、人民教育出版社、1987年。
- 7) 『日語学習与研究』、『日語学習与研究』雑誌社、1989年第6期、58ページを参照。
- 8) 相原茂監訳、『現代中国語文法総覧（上）』、くろしお出版、143ページ。
- 9) 同上、168～174ページを参照。
- 10) 同上、171ページ。
- 11) 同上。
- 12) 牛島徳次ほか監訳、『現代中国用法辞典』、現代出版。
- 13) 『日語学習与研究』、『日語学習与研究』雑誌社、1989年第5期、80ページを参照。
- 14) 『外国人のための基本語用例辞典（第二版）』、文化庁、680ページ。

（愛知学泉大学経営学部客員講師）